

<p>1 学校教育目標</p> <p>三綱領「正大・剛健・寛厚」のもと、求めて学び志を成す「地球(知究)市民」の育成を目指す。全日・定時・倉岳相互の連携を図りながら、しなやかで豊かな人間性の育成と、保護者・地域が信頼を寄せる学校づくりを推進する。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1)基礎学力定着と主体的な学び支援 (2)適応指導と生きる力育成 (3)キャリア教育の推進 (4)自己肯定感と協働性の育成 (5)健康と安全への行動力育成 (6)SDGs視点の生涯学習基盤づくり。(7)地域との連携 (8)生徒一人ひとりの心の教育の充実 (9)働き方改革の推進</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	・魅力ある学校づくり	・学校行事等の充実を図られたか。	・学校行事に参加する生徒の割合は、8割以上を目指す。	・行事内容の工夫・精選を図る。 ・生徒が参加しやすい環境の整備を図る。 ・生徒との対話・指導の充実を図る。	B	・予定どおり学校行事を実施することができた。 ・主な行事への参加率は、「定通体育大会」91.7%、「定通文化大会」83.3%、「教育の日コンサート」87.5%だった。
		・安心・安全な学習環境は確立できたか。	・生徒一人ひとりが安心して授業に参加できるように、日々の学習環境を整える。	・すべての職員が、生徒にとって信頼できる大人になれるように、授業改善に努め声かけなどを行う。		A

	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事防止及び地域・保護者・生徒の信頼と期待に応える教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の危機管理意識の向上及び実践はできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制・倉岳校の状況を参考にし、定期考査及び入試事務処理等の個人情報管理を徹底する。 ・不祥事を「0」にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報管理の共通理解事項について、職員研修等を実施・確認しながら全職員が共有する。 ・不祥事防止テキストを基に確実に実行する。 	B	<p>題の1つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報管理については1月までに4回、Classroomの「課題」機能を使って資料提示や調査を行い、職員間で個人情報管理に関する共通理解を深めることができた。特に、オンラインサービスへ個人情報を投稿しないという基本ルールの周知が進み、情報管理への意識向上につながった。 ・不祥事防止についても、Classroomの「課題」を活用した4回の研修を通して資料や記事を基に検討を行い、職員の規範意識を高めることができた。具体事例の検討により、一人ひとりが不祥事のリスクを自覚し、行動規範の確認につながった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の公開は十分か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の発行をする。 ・ホームページの充実を図る。 ・公開授業の実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「定時制新聞」を年5回発行する。 ・日々の学校行事や話題をホームページに掲載する。 ・振興会総会の際に、学校評価アンケートの結果を公開し、授業参観する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「定時制新聞」は、年5回の発行予定に対して3月の発行を残すだけになった。 ・ホームページに毎日学校行事等を投稿して情報発信を行うことができ、閲覧数も1日平均200件以上と安定している。 ・振興会総会への保護者の出席率は昨年同様3割程度だった。昨年度課題であった授業参観は小数だが参加が見られた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務改革は図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務環境を改善し、協働体制を整え、業務の効率化に取り組む。 ・「学校DX化」に向け、ペーパーレス化を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を出し合い課題を認識すると共に全職員で共有・改善する。 ・DX化に取り組むことで、職員の負担軽減を図り、各会議等の資料はデジタル化しクロー 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・労安懇話会を2ヶ月に1回実施し、校長・教頭・衛生推進員2名で勤務時間の分析や職員アンケートを基に協議を行った。協議内容は全職員に共有され、事務職員業務の見直しや時差出勤の改善など、働きやすい職場環境づくりに一定の成果が見られた

				ムブック活用の定着を図る。		。会議資料のデジタル化を進め、パソコンでの資料閲覧を基本とする運用へ移行したことで、会議準備の効率化や保管・共有の容易さが向上し、ICT活用意識の向上にもつながった。一方で、印刷用紙の使用量は昨年度比約6%増加しており、デジタル閲覧が十分に定着していない状況がうかがえる。今後は、デジタル資料活用の徹底や、印刷最小化のルール再確認など、より実効性ある取組が求められる。
		・授業改革は図られたか。	・新学習指導要領施行をふまえて、理解力や特性に応じて、より質の高い教育を提供する。	・授業と評価の一体化を意識して、効果的な指導のあり方や教材研究、生徒理解に取り組み、授業と評価の改善を図る。	A	・授業評価アンケート（生徒）質問2「課題や提出物は期限を守って提出している」は平均3.47で、昨年度の平均をわずかに上回った。定期考査でのアウトプットが苦手であっても、日々の授業での取組や課題の提出等が、評価に繋がっているということが生徒にも浸透しつつある。同質問5「先生の声は聞き取りやすい」、同質問6「先生の板書は見やすい」、同質問9「先生の説明は分かりやすい」、同質問10「授業の中で大事なことや覚えるべきことは、はっきりしている」はいずれも昨年度の平均を上回っている。
・業務改善及び働き方改革	・勤務超過時間の短縮は図られたか。	・教職員の勤務時間外在校時間を年間平均月15時間以内にする。 ・年間15日以上の年休取得を、目指す。	・労安懇話会を通じて、常に職員の勤務時間をチェックし、呼びかける。 ・長期休業中の年休取得しやすい行事日程を計画する。夏	A	・勤務時間外在校時間は4月から12月までで月平均11時間57分、昨年度が月平均14時間30分であり2時間半ほど削減できている。 ・年間年休取得に関しては、職員会議等を長期休業前に実施、また、考査	

				季休業中の学校閉庁日（4日間）を設ける。併せて、時間外勤務時間が長い職員には、個別に助言等を行う。		期間中も早期退勤を促した。令和7年1月から12月までの年休所得平均は、15.5日であった。
学力向上	・主体的に学習する習慣・態度の育成	・積極的な授業参加は図られたか。	・学びのUD化を取り入れた、分かる授業を提供する。授業でのやり取りなどとおして、生徒との良好な関係を構築し、積極的な授業参加を図る。	・欠席の多い生徒については職員間で情報を共有する。SCやSSW、市役所などの行政、ハローワーク等の関係機関と連携を図り、様々な支援のあり方について検討する。	B	・職員連絡会（毎月1回）や生徒連絡会（月1回）を通じて、すべての職員で情報を共有しながら、丁寧な生徒対応を心がけた。また、SC面談（月1回）に加えて、入学者全員と年度当初に個別面談を実施した。課題を抱えた生徒については、外部機関とも連携し、適切な支援体制の構築を図った。授業参加については、授業評価アンケート（生徒）質問1「授業にはいつも積極的に取り組んでいる。」は平均3.39で、昨年度の平均には至らなかった。学びのUD化については、教師同士、生徒同士、教師と生徒が同じ認識のもとに足並みをそろえて、学校生活を送れるようなものを、来年度からの実施を視野に検討中である。
		・学習習慣の確立は図られたか。	・授業時のプリント教題や基礎学力向上のための課題の進捗状況や提出状況を確認することで、時期に応じた学習を意識づける。	・授業時のプリント教材や基礎学力向上のための課題などは、時期を定めて回収・点検する。学習の進捗状況を振り返らせて、学びを調整するように促す。必要に応じて始業前に上級学校進学のための課外や個別の補充的な学		C

				習を行う。		慣の確立に努めている。」は平均2.0で過去回の結果を大幅に下回っている。学習習慣の確立＝宿題ではなく、定時制の状況に応じて学習習慣を確立するために、どのような手段があるかの検討が急務である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・指導力向上や授業充実に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の実施及び結果の活用はできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価アンケートを年1回実施し、検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果をもとに、教師同士がアドバイスしあえる場面や仕組みを調整する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に授業評価アンケート（生徒）を実施した。質問1「現在の授業は楽しく、満足している。」は平均3.35で、昨年度と同じ結果であった。授業評価アンケートの結果やTTの際の気づきなどから教師同士でアドバイスをしたり、生徒からの要望などからICT活用実践をしたりするなどの授業改善を行った。
		<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の充実は図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の実情に応じた研究授業のあり方を検討し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部で企画、日程調整を行い、研究授業、合評会を充実させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に研究授業（保健・体育、外国語）を実施した。研究授業後には合評会を行い、気づきやアドバイスを共有した。学校評価アンケート（職員）質問7「本校は、研究授業や合評会を充実させ、職員の指導力の向上に努めている」は平均3.3で、近年で最も高い評価を得た。10月には公開授業週間も実施した。定通文化大会の準備と重なっており公開する時間が少ないこと、生徒への配慮のためには事前の申し込みをすることが課題である。今年度の公開授業見学者は1名であった。
キャリア教育（進路指導）	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力・適性に応じた就職・進学指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力を伸長する取組と適性に応じた就職・進学指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろの生徒とのコミュニケーションを欠かさず、個別のニーズに応じて進学・就職準備を進 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が見通しを持てるよう、情報を提供する。 ・生徒のペースに寄り添 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に面談を実施しながら様々な情報を提供することができた。その一方で課題として、生徒の不安を払拭させる指導とし

			める。	った進路学習の支援を行う。		ては不足する点があった。
	・社会人として必要な資質を身に付け働く意義を知る取組	・社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。	・学校生活全般を通じて、自らの役割を果たせるようにする。	・学校生活全般を通じて、自らの役割を果たせるように役割の大小を問わず、一人一役を働かせる。	B	・生徒会を中心に様々なことを担当してもらった。課題として、キャリア教育のLHRや企業見学の中で、役割や特定の目的意識をもたせてみたい。
	・望ましい勤労観・職業観の育成	・キャリア意識の醸成は図れたか。	・未就労の生徒にはインターンシップ参加を勧める。 ・就労中の生徒には声を掛け、仕事と自らの関係の振り返りを促す。	・インターンシップや就労中の仕事を通じ、振り返りや問題の解決を通して望ましい勤労観や職業観を育成する。	B	・労働法の学習を行うなど、身近な学習を通して意識の向上を促すことができたのではないかと感じる。課題として、インターンシップや企業見学を通してより就労意識を高められるような指導も取り入れたい。
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立を図り、学校生活への適応を促進	・規範意識の醸成は図れたか。	・学校に楽しく登校できる環境作りを行い、遅刻・欠席を前年度の数字より減少させる。 ・生徒が互いに周囲の生徒とコミュニケーションを構築し、楽しい学校生活を送れるよう行事等を工夫する。 ・SNS等を正しく使用できるようにする。	・各ホームルームで毎日声かけを行う。 ・各行事において生徒間の会話の機会を増やす取り組みをする。 ・SNSの利用について全校集会等の機会を捉え、正しい使い方を指導する。	A	・職員からの積極的な声掛けを継続して実施したことで、職員と生徒のコミュニケーションが醸成され、円滑な学校生活が送れている。 ・SNS等の利用に関しては全校集会等の機会を捉え指導を実施した。 ・機会を捉え、機会を逃さないように全職員で規範意識の向上に取り組んできた。 ・一方的な指導ではなく生徒の話聞くこと事を重視し、個別な対応が出来た。
		・生徒理解のための取り組みは十分か。	・毎月「生徒連絡会」を実施し、全職員が生徒の実態を把握し、共通理解を図り、指導に役立てる。	・毎月、各担任が生徒一人ひとりの職場・学習・生活の状況について報告し、全職員で情報を共有し、対応策を話し合い、実践する。	A	・毎日の始礼、毎月1回の生徒連絡会において全職員の共通理解を図り、生徒に対する理解を深めている。 ・生徒のわずかな変化を見逃さないように定期的な面談、必要に応じた随時の面談を実施した。
	・年間を通じた問題行動の未然防止	・問題行動の未然防止は図れたか。	・特別指導件数を「0」にする。 ・連絡会で気になった生徒については、担	・生徒理解に努め情報を共有し、職員の共通理解のうえ事前指導に重	A	・毎日の始礼、毎月1回の生徒連絡会において全職員の共通理解を図り、生徒に対する理解を深めている。

			任・生徒指導部で早期に面談等を実施し、未然防止に努める。	点を置き、早めに対応をしていく。 ・年間を通しての校内巡視を実施する。 ・生徒のわずかな変化も見逃さず機会を捉え指導する。		・特別指導件数は「0」であった。 ・生徒のわずかな変化を見逃さないように定期的な面談、必要に応じた随時の面談を実施した。生徒にも一番話しやすい職員に悩み等を話すように伝えている。 ・休み時間に校内巡視を行った。
		・交通事故防止は図れたか。	・事故件数を「0」にする。	・長期休暇前や、全校生徒が集まる機会を捉え、注意喚起を行う。 ・交通安全教室を実施し交通事故防止に努める。	A	・交通安全教室を開催した。 ・今年度の交通事故は発生していない。今後も事故防止を目指して指導していく。
	・生徒会活動及び学校行事の活性化	・生徒会の主体的な活動の支援はできたか。	・各種行事への生徒会の積極的な関与を促す。	・各種の行事における企画立案への助言を行う。	A	・天草高校文化祭のうどんバザーにおいて昨年に続き地元食材にこだわったうどんを販売し好評であった。
人権教育の推進	・職員の人権感覚の向上	・職員研修の充実が図れたか。	・研修の機会を確保する。	・年4回の研修実施。	A	・年4回の研修の実施に加え、日々の生徒情報の共有時に様々な配慮をしながら人権感覚が向上した。
	・「命を大切にすることを育む指導」の充実	・命を大切にすることを育む指導の充実が図られたか。	・人権教育LHRへの参加100%。	・個別に手立てを行う。 ・次につながる事後アンケートをとる。	B	・出席生徒が参加しやすいよう、別室での視聴なども準備・利用した。毎回事後アンケートも実施、回収できた。
いじめの防止等	・いじめ防止基本方針に則った活動を遂行し、いじめのない学校づくりを推進する。	・いじめの未然防止が図られたか。	・毎日の連絡会において、生徒の様子を報告し、未然防止に役立てる。	・連絡会において前日の様子を全職員で共通理解し、指導方針を決定する。	A	・各学期にアンケートを実施し、いじめの訴えは「1」であった。 ・生徒理解に努め、共通理解を深め、日々の指導に生かしたことがいじめ防止に役立ったと思われる ・学校生活全てにおいて、いじめに関しての高い感度のアンテナを持つ必要がある。
		・いじめの早期発見の取組が、図られたか。	・年3回アンケートを実施し、考査期間に全生徒の担任面談を実施する。	・アンケート調査だけでなく生徒が安心して職員に相談できる人間関係の構築を	A	・アンケートによりいじめが発覚したが、素早い対応ですみやかに解消した。今後も早期の発見・対応に注力していきたい。

<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育の観点を踏まえた、特別な支援を必要とする生徒への適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの実態把握に必要な支援の実施と、それを受けた評価、改善の実施ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒連絡会で月に一度情報を共有し支援方法を検討、実践する。 ・学びのUD化の視点を取り入れた授業を行う。 ・生徒の実態に応じて個別の支援計画、個別の指導計画等を作成し、実践する。 	<p>行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援についての連絡会、研修、外部機関と連携した支援会議を毎学期行う。 ・新入生に関して、中学校または前籍校からの引き継ぎがある生徒を中心に個別の支援計画等を、担任が作成する。 ・教頭や特別支援コーディネーターを中心に個別の支援及び指導方法について全職員で共通理解を図りSC・SSWと連携し支援体制を整える。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒連絡会を月に一度実施し、生徒一人ひとりの実態や生徒の状況について情報共有を行い、支援方法の検討及び実践につなげることができた。また、学びのUD化の視点を取り入れた授業づくりを意識し、生徒の理解度や特性に配慮した指導を行うことができた。 一方で、支援会議研修については計画通り毎学期実施するまでには至らず、支援の評価・改善を行う点に課題が残った。
<p>地域連携(コミュニティ・スクールなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・統合型コミュニティ・スクール 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の組織づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の基本方針に係る教育活動の計画等に関する協議を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を年2回開催し、本校の教育活動について検討する。 ・本校の教育活動の現状を把握するため、在校生・保護者・本校職員への学校評価アンケートを実施する。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果から、成果としては、「人権教育」「安全教育」「個別支援」は生徒・保護者から高く評価され、「進路支援(情報提供・指導)」も平均 3.3~3.6と安定した強みが見られた。 課題としては、「学習習慣」「基礎学力」の定着については、生徒・職員が共通して課題と認識していた。 また、「自治・学校生活の充実」は、生徒・保護者で評価が低めであった。さらに、「家庭・地域との連携」では、保護者の授業参観評価と職員の地域協力評価がやや低く、今後の改善ポイントとなる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・高校間の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて生徒が地域ボランティアや 	<ul style="list-style-type: none"> ・各方面からの参加の案内や地域広 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア参加者は「すぐる」を活用して周知を

			地域行事に参加する。	報などについて、「すぐる」を活用し、生徒に周知し、積極的な参加を呼び掛ける。		行い、積極的にボランティア活動の参加を呼びかけ、参加者は増加した。
健康安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関する意識の高揚と環境保全意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育等の充実は図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期及び適時の保健指導を実施する。個々の生徒の状況や季節に応じて、指導を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回学期始めに生活習慣チェックを実施し、気になる生徒については個別に保健指導を行う。 月1回「保健だより」を発行する。 保健室前掲示板を活用する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣チェックは、遅刻などで記入を忘れてしまう生徒がいるため、把握しつつ個別に指導していった。 保健だよりは毎月季節や実態、行事に合わせた内容を話題にしている。 保健室前掲示板は、1~2ヶ月に1回の貼り替えを行っている。今年度はテーマを設けず、実態に応じて掲示物を変えた。なるべく動きのあるものを掲示しているが、配置が変わっていたり使った形跡があった。
		<ul style="list-style-type: none"> 学校給食の充実を図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養面を考えた上で、可能な限り生徒が希望する補食内容にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の要望を定期的に聴取し、予算の範囲内でパン・ジャム等の種類を変更する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 予算の都合上、ジャムがない日があったが、味付きのパンを多くするなどの工夫を行った。また、パンが小さくなったので足りているか心配である。 内容については、時々生徒から直接意見を聞き、牛乳・ジュースの回数やジャムの種類を変えるようにしていた。
		<ul style="list-style-type: none"> 環境教育の充実を図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回のエコスクール週間を中心に、生徒の環境意識を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> エコチェックアンケートの実施と環境ISO委員会による集計・検証・改善を行う。 入学式で新入生の花道を飾るための花の球根植えを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> エコスクール週間の第2回をテスト期間中に設定してしまったため、回収率が下がってしまった。エコスクール週間中、環境を意識して取り組むことができた。 チューリップ球根植えは、一人一鉢にしており、生徒たちも意欲的に取り組んでいた。
	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上と安全教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 安全教育等の充実を図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教育、薬物乱用防止教室を実施する。 心肺蘇生法の 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部、保健体育部及び関係機関と連携を図りなが 	A	<ul style="list-style-type: none"> 5月、交通安全教室は交通ルールと危険予知トレーニングを通して交通事故未然防止に努

			講習会を開催する。	ら企画する。		めた。 ・12月薬物乱用防止教室については、学校薬剤師をお呼びして話をしていた。「危険ドラッグ」等について分かりやすく説明をいただき生徒たちもしっかり聞いている様子が見られた。 ・7月に心肺蘇生法やAEDの使用などの応急手当の講習・実践を行う。
		・体力・気力の向上は図れたか。	・定通体育大会、マラソン大会等、体育行事に積極的に参加させる。	・保健体育部が中心となり生徒の健康状態を把握し、生徒一人ひとりに応じた計画的な指導を行う。	A	・定通体育大会、校内マラソン大会、ボウリング大会等体育的行事を実施し、生徒は積極的に参加していた。 ・体育の授業において積極的な活動を行い、体力の向上を図った。 ・体育の授業の初めに10分間走を実施し、持久力の向上を図った。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>(1) 積み重ねが十分でない生徒や、生活力・基礎学力・保護者の支援力に課題のある生徒に対して、教師がゆっくり、じっくり、我慢強く育成にあたっている点が評価された。</p> <p>(2) ホームページで、取得可能な資格や身につく力をより分かりやすく発信し、受験生への広報をさらに強化してほしいとの意見があった。</p> <p>(3) いじめ・不登校が課題として挙げられ、コミュニケーション力、判断力、予測する力などの育成を期待する声が寄せられた。</p> <p>(4) 定通文化大会の意見発表者が「教師になりたい」と述べていたことについて、その夢の実現に向けた支援状況に疑問があったが、本校に14～17時の課外・学習環境が整備されていることを初めて知り、評価された。</p> <p>(5) 定時制の受験者数が昨年3名から今年10名に増加したことは、これまでの地道な取組の成果であり、大変喜ばしいとの評価があった。</p>

<p>5 総合評価</p> <p>本年度は、授業改善・生徒理解・安心安全な学級づくりを中心に、教職員が組織的に取り組んだことで、学校全体の教育活動に一定の成果が見られた。</p> <p>(1) 授業改善の進展 1年次のTT活用、基礎学力に応じた個別補習、ICT活用の工夫などにより、生徒アンケートでは「説明の分かりやすさ」「授業の見通し」「話しやすさ」など複数の項目が前年度より改善した。ユニバーサルデザイン(UD)を意識した授業づくりへの準備も進み、来年度のさらなる授業改善につながる基盤が整った。</p> <p>(2) キャリア教育の充実と支援 面談の計画的実施や進路情報の提供が定着し、生徒の進路への見通しを持たせる指導が進んだ。特に三者面談や追加LHRなど、卒業年次への支援が強化された。一方で、インターシップ等の参加は改善途中であり、今後の充実が求められる。</p>
--

- (3) 生徒理解に基づく生活・安全指導の成果
毎日の始礼、月1回の生徒連絡会を通じて生徒理解が深化し、特別指導件数「0」を継続するとともに、いじめ事案も早期に把握し解消できた。SNS指導や交通安全教育も継続して実施したことで、今年度の交通事故も「0」であった。
- (4) 地域連携・広報の強化
ホームページの毎日更新、「すぐーる」による迅速な情報発信、「定時制新聞」の継続発行など、広報の質が向上した。これらの積み重ねにより、定時制受検者数が増加するなど、学校への信頼と認知の向上に繋がった。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 学習習慣の確立
本校の生徒は学習歴や生活背景が多様であり、学習習慣の定着にはまだ大きな個人差が見られる。授業のユニバーサルデザイン(UD)に向けた準備は進んだものの、来年度は授業構成の明確化、スモールステップの設定、振り返りの充実などを通して、生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業改善をさらに強化する必要がある。また、基礎的・基本的な内容に不安を抱える生徒に対しては、始業前の個別指導や短時間補習を継続し、欠席や生活リズムの乱れによる学びの遅れを最小限にする学習支援体制を整備する。ICTの活用も引き続き進め、個々の状況に応じた学習方法を保障しながら、学習習慣の確立を図る。
- (2) 生徒にとって安心・安全な学校づくり
生徒が安心して学校生活を送れる環境を整えることは最優先の課題である。不安感や対人関係の悩みから不登校傾向を示す生徒もおり、背景には孤立感やコミュニケーション不安が見られる。いじめは早期対応により深刻化を防げているが、SNSに起因するトラブルは今後も注意が必要である。来年度は、毎日の始礼・月1回の生徒連絡会を継続することで、生徒の状況を職員間で共有し、迅速な支援につなげる体制を維持する。また、SC・SSWとの連携をさらに強化し、必要な生徒には計画的な面談を設定することで心理的安全性を高める。加えて、HRで「話せる場」「つながる活動」を意図的に取り入れ、安心して過ごせる人間関係づくりを推進する。
- (3) 個別支援体制の強化(キャリア教育)
生徒のキャリア形成や進路決定には個々の不安や課題が大きく影響するため、個別支援体制の強化は重要な課題である。進路面談は計画的に実施されているものの、卒業年次には不安が増大し、支援が後手に回る傾向がみられる。来年度は、二者面談に加えて早期の三者面談を導入し、2学期から進路の見通しを持たせる支援を開始する。また、インターンシップや企業見学の参加率向上に向けて地域事業所との連携を広げ、職業体験の機会を安定的に確保する。さらに、アルバイト生徒に対しては労働法教育や生活リズムの支援を行い、働きながら学ぶ生徒の個別事情に寄り添った支援を強化する。キャリア教育の内容も学年実態に応じて再構成し、生徒が自己理解と将来の見通しを深められるようにする。
- (4) 保護者との連携強化
次年度に向けた最大の課題は、保護者との連携の希薄さである。「すぐーる」未登録の保護者が4名おり、学校からの情報が十分に届かない状況が生じている。また、学校評価アンケートの提出が8/24と大幅に低下し、学校の教育活動に対する理解や関心を高める必要がある。来年度は、まず未登録家庭への個別フォローを行い、確実に登録を完了させる。そのうえで、HPや「すぐーる」での発信内容を「今日の学び」「日々の生徒の成長」「学校での取り組み」など、保護者が関心を持ちやすい内容に改善する。アンケート回収率向上のため、紙とQRコードの併用、配付時期の工夫、担任からの個別声かけを実施する。また、生徒会によるブログ投稿や学校紹介活動など、生徒主体の発信を取り入れ、保護者が学校を身近に感じられる環境を整えることで、信頼関係の構築を図る。